

～ 院長コラム ～

『 日本人に合う 』

江戸時代以降の日の名医が創作した漢方薬があります。

これを「本朝経験方（ほんちょうけいけんほう）」と言います。

本朝経験方という名の文献が出典なのではなく、日本で生まれて経験的に幅広く用いられているが明確な創作者がわかっていない処方という意味です。

本朝経験方は日本経験方とも表記されます。

大塚敬節が創作した七物降下湯（しちもつこうかとう）や花岡青洲が生み出した十味敗毒湯（じゅうみはいどくとう）のように、創作者がわかっている日本生まれの処方が本朝経験方に含まれている場合も見られます。

しかしながら、多くの場合は上記で説明した通り「作者不明」を指しています。本朝経験方の特徴としてはベースとなる処方に数種類の生薬を加えたり、2つの処方を合体（合方）させたものが多いという点が挙げられます。

前者は葛根湯に辛夷と川きゅうを加えた葛根湯加川きゅう辛夷、後者は小柴胡湯に半夏厚朴湯を合方した柴朴湯などが有名です。

その他にも代表的な本朝経験方には、

桂枝茯苓丸加ヨクイニン 五虎二陳湯（五虎湯合二陳湯）

柴陷湯（小柴胡湯合小陷胸湯） 柴蘇飲（小柴胡湯合香蘇散）

小柴胡湯加桔梗石膏 小青竜湯合麻杏甘石湯

治頭瘡一方 猪苓湯合四物湯

伯州散（エキス剤にない） 茯苓飲合半夏厚朴湯

抑肝散加陳皮半夏

などがあります。

これは日本人用に作られた漢方薬ですから、試す価値はあります。

私は、小柴胡湯加桔梗石膏（しょうさいこうかききょうせつこう）を頻用しています。

咽頭炎、扁桃炎に重宝します。

「こども健康ネットブログ」より



なかしまこどもネット QRコード

※名前を入力して送信して下さい



こども健康ネットブログ

QRコード



なかしまこどもクリニック

公式LINE QRコード

漢方ファン

— Vol. 14 (2022年6月) —



 なかしまこどもクリニック